

2016年11月6日(日)

説教:「神の教えに生きる」

聖書:ダニエル書1章1～21節

ダニエル書の物語は、南ユダ国がバビロン王ネブカドネツアルによって滅ぼされ、王をはじめ指導者層が捕囚とされた出来事から始まる。バビロン王は、捕囚の民に自国への同化を強いていく。いわゆる占領国民の同化政策である。名前、言語、文化、教育、宗教などが強制的に同化されていく。

日本もかつて、東南アジアを制圧して植民地化し、同化政策を行った。名前、言語、文化、教育、宗教などを強制的に押し付け同化を図った。同化の意図には、国家の強化、統一化があるが、しかし同化の本質は、本来異なるものが同じになること。同じ性質に変えること。外から取り込んで自分のものにするのである。そして不便なものを押しつけ、必要になれば切り離し捨てるのである。沖縄はいち早く同化政策が行われ、十分に「同化」が成功した島であろう。まさに不便なものを押し付けられ、不必要な時期に切り捨てられた。沖縄は日本国家が世界に誇る同化政策の成功例である。

照屋寛範牧師召天 20 周年記念「恩寵の回顧」がある。その中で照屋師の著書『キリスト猶生きて』に触れた文章がある。…先生は「福音の土着化」に生涯心砕かれた方である。先生のキリスト者としての人格形成と牧会伝道のお働きの中に、福音の土着(受肉)化が見事に結実しているのを見る。私は先生のご人格を見る度に琉球の奇蹟、琉球という土壌に咲いた見事な福音の花との思いを禁じ得ない。私はある意味で先生は、キリスト者であられる前に「琉球人」であられたと思う。郷土琉球をこよなく愛し、その人と文化と歴史を深く愛し誇りに思っておられたと思う…。

同化政策にはマイノリティー(少数派)への視点はない。ゆえにこの日本において沖縄の生きる道はないと言える。しかし、沖縄人がアイデンティティーを持って生きる時、なお沖縄人として生きていることになる。ダニエルは、バビロン王の同化政策に立ち向かっている。たとえベルテシャツアル(王の命を守るの意)という名前に変えられても、ダニエル(神は私の裁き手の意)として生きたのである。ダニエルとして生きるとは、主なる神が常に共に居られるということであり、神が与えてくださったイスラエル人としてのアイデンティティーをもって生きるということである。

私たちは、この沖縄に生きる者として、この沖縄の歴史、文化を大事にしつつ、神が教えてくださる生き方に、生きる者とさせて頂きたい。(神谷)